

# まちサミット「かわと」

## ～川跡の未来・夢を語る集い～



増刊号

第184号

2021.1.20

### 【まちサミットかわと】特集号

11月29日(日)『まちサミットかわと』～川跡の未来・夢を語る集い～を開催しました。未来を担う若者たちのしっかりとした素晴らしい意見に会場の皆さんは「自分たち大人が動き出さねば！」と強い刺激を受けました。またこんなに立派な次世代がいる川跡は素晴らしいと誇らしく思いました。地域のたくさんの皆様に当日の意見発表の様子をお伝えしたく、今回特集号のセンター報を発行します。発言をそのまま活字にしておりますので、読みにくい点があると思いますが、ご理解ください。

パネラー(意見発表者)

- 伊藤 隼さん(北陽小5年・中野美保五)
- 深田想大さん(出雲三中3年・高岡町)
- 長崎耕作さん(島根大学2年生・高岡竿井手上一)
- 和泉三恵さん(荻杼第五)
- 藤原恵美子さん(高岡西)

コーディネーター 花原良治センター長  
司会 坂本君代チーフマネジャー

**坂本** さて私がなぜ「まちサミット」と名付けたかという頂上とかいう意味がありますね。次世代を担うリーダーが集い、学び、意見交換し将来のビジョンを描くための場を持ちたかったからです。皆さんにとつて川跡はどんな故郷ですか。故郷の言葉の響き、温かいですが、今は密になつてお聞きいただきたいと思います。先程ここで待機している時に大きなため息をしております。それは伊藤隼さん、お願いいたします。

**伊藤** 私は北陽小学校5年生の伊藤隼です。僕が考える川跡の良さ、魅力について発表します。川跡の良さは、魅力は4つあります。1つ目は地域の皆さんが優しく接してくださることです。僕は一年生からチャレンジ広場や和太鼓、夏休み学習広場で川跡コミュニティセンターに行く地域講師の方からいろいろなことを教えていただきました。また夏休み学習広場などで、体力づくりのためになるべく歩いて通うようにしていただきました。中野に住んでいるので徒歩30分かかるけれど、僕が歩いていると途中で出会う地域の人が「頑張っているね」とか「すごいね」など声をかけてくださつてうれしかったです。

2つ目は夏休み学習広場やチャレンジ広場で色々な年代の方々と関われることです。お父さん、お母さん位の方々とお話しすることも、おばあちゃん位の方々と年齢の方からたくさん話を学べます。3つ目は登下校で地域の方々が見守つてくださることです。僕が登下校中に良いことをしても悪いことをしても、すぐに父、母、祖母の耳まで届きます。(会場笑)でも家族の耳に届くのは皆さんが見守つてくださつていてくれるからです。通学路に立つておられる地域の方々や川跡見守りパトロール隊さん、川跡コミュニティセンターの職員さんの見守りで、僕は安心して登下校ができます。「たくさん見守つてくださる方々があられて、ありがたいたいね」とよく家で父と母と話します。

4つ目はやはり支えてもらっていることを実感できることです。僕は一年生のころ、学校までが遠くて学校に行きたくないと思う時期もありました。でも僕が泣きながら登校しているときに、隼君がんばれ、フアイト」と声をかけてもらつて、頑張つて歩いて学校に行くことができました。5年生になつた今でも忘れることなく覚えていきます。たぶん僕を応援してくださる方々の思いが伝わり、僕も頑張らないうつと、心のどこかでいつも思っているからだと思います。また笑顔で「おはよう。今日も一日頑張つて」と声をかけてもらいます。地域の方々の応援や励ま

しがあつてこそ、ここまで成長してきたと思います。次に川跡地域活性化について考えてみました。今でも十分魅力的な川跡ですが今以上に魅力的な川跡を創るにはどうしたら良いか考えてみました。一番に思い付いたのは野球を習うことです。僕は3年生から入った少野球を習っています。なのでたくさん野球ができる球場が欲しいと思います。

でもよく考えてみると川跡には北陽小グラウンド、河川敷があるし野球をやるには場所もお金もかかるので別のことを考えてみました。そこで思い付いたのは川跡の自然を活かしたキャンプ場です。僕は小さい時から家族でキャンプに行っています。キャンプは自然と触れ合えたり、飯盒でご飯を炊いたり、普段経験できないことが出来ます。また今は新型コロナウイルスの関係で、今までの生活が変わつてきたり、全国各地で起こる自然災害では避難生活をしなさいといけません。そんな時にキャンプの知識や経験が活かされます。また僕のおじいちゃん、おばあちゃんもキャンプに行つたことがありません。近くにキャンプ場があれば招待してあげることが出来るので、ご飯を作つたりテントで泊まつたり一緒にいるのをやってみたいです。

おじいちゃん、おばあちゃんだけではなく課外授業や幼稚園や保育園でも気軽に行ける、体験できるキャンプ場があつたらいいと思います。施設を造ることだけでなく、今のままで川跡の魅力をPRすることだ川跡の活性化につなげ人口を増やすことにつなげられるか考えてみました。人口を増やす方法は「かわとひめ」を有名にするというと思います。かわとひめの人形や着ぐるみを作るといいと思います。かわとひめになり知つてもらえると思います。

川跡の良さをPRするのいい方法だと思います。川跡をPRすると川跡の自然の豊かななどが伝わります。学校の習う総合的な学習の時間で再発見した地域の良さを活かしながら川跡を有名にして人口を増やしたいです。活気のある川跡を創りたいです。最後に、僕はチャレンジ広場や和太鼓をやりたいです。最後に、チャレンジ広場や和太鼓で学んだことは僕たちの生活に生かせることばかりです。このことは友達にも知ってもらいたい僕たちが大人になつても川跡の良さや魅力を伝えていきたいと思つています。

**花原** 今、キャンプ場を造るといいなという話がありました。川跡には斐伊川という自然に恵まれた川がありました。川跡には斐伊川と川跡の自然を造るといいと思います。斐伊川の近くにキャンプ場を造るといいと思います。

**伊藤** 僕が川跡の近くにキャンプ場を造るといいと思います。斐伊川の近くにキャンプ場を造るといいと思います。

花原 も一つ聞いていいですか。ずーつと大人になってもこの川跡に住み続けていただけますでしょうか。

伊藤 それはわかりません（会場爆笑）

坂本 隼君が発表するって知って地域のおばあさんが激励の電話をくださったって聞きまして、その激励にこたえられたでしょうか。

伊藤 ……（はにかむ）

坂本 大丈夫だったと思いますよ。伊藤さんありがとうございました。続きまして、出雲三中の生徒会長でいらつしやいます。深田想大さんにお話しをお願いしたいと思つています。深田さんのおじいさんにはお世話になつていらつしやる方がこの中にもたくさんいらつしやると思つています。大変しつかりした生徒会長さんです。ではお願いします。

深田 みなさんこんにちは。出雲第三中学校で生徒会長を務めさせていただいております。深田想大です。どうぞよろしくお願ひします。僕の方からは校内の川跡出身の本部執行部にアンケートを行つた結果の内容とその結果から考えたことについて発表します。アンケートの内容は以下の3つです。

今の川跡に必要なと思う事

中学生から見た川跡の良いところ  
川跡での思い出 この3つについて聞きました。  
一つ目の「今の川跡に必要なと思うこと」ここで多くみられた意見は、まずみんなが集まれる機会や場所が欲しい。これは小学生やそれ以前に比べて中学生になつて地域の人と関わる機会がとて減つた。これがたぶん原因だと思つし、実際聞いたところ、やつぱりみんな交流とかもなくなつて地域と関わる機会が減つたという理由でした。また人が少ない、若い人が少ないという意見もありましたが、このグラフを見たらわかると思うんですが、川跡の人口はわずかですが増加現象にあつて、若い子育て世代の人口が増加していきます。なので一部は先入観の問題があるのではないかなという印象を受けました。

二つ目「川跡の良いところ」ここで多くみられた意見はとて人が優しいということと、川跡のなんだろう。地域の温かさを感じてあつて、川跡のなんだろう。地域という意見もたくさん出ました。また自然が豊かであるという意見もありました。これはさつきあつた、みんなが集まれる機会や場所になつていてと考えると、今の



川跡に必要なと思う事に入っている、集まる機会や場所になつてきているのは祭りやボランティアのイベントがそういう機会になつてきているんじゃないかと感じました。人が優しいところでは、よく話しかけてもらえる、あいさつをして住みよい街になつていくとすごく感じました。人にとつて住みよい街になつていくとすごく感じました。

最後に川跡での思い出を聞きました。ここでは祭り、エコマツリ、ふるさと祭りなどの祭りに今は参加できなくて、昔、一年前、二年前参加した思い出がすごく良い思い出になつていたり、地域でボランティア、地域の皆さんと参加したこととも楽しかった思い出として残つていて、この話をたくさん聞きました。これもみんなが集まれる機会や場所となつていて地域の交流の場となつていて感じました。これらのアンケートをして、中学生になつてイベントに参加する機会はとて減つたんですけれど、小学生やそれ以前に参加したことは、とても楽しい思い出として残つています。それがすごくアンケートして、その結果がすごく表れました。

また中学校に入つて、小学校に比べると関わる機会が減つたので、学校側から生徒会として何か地域と関わりたいなとすごく感じました。そこで、地域学校連連管理会の方々の意見交換で地域と生徒会が協力して地域でのあいさつ運動も行いたいと思つてもいいです。今年度、私はもうすぐ引退なので来年度に引き継いで何とか実現に持っていきたいと思つています。またアンケートや地域連連管理会の方々の話を聞いて、イベントなどに参加できなくても、登下校時にあいさつを交わすこと、地域貢献というところから繋がることを、地域貢献という小さいことからさん言つていただけて、僕らができる小さいことから毎週水曜日に生徒会本部役員、代議員、生活委員会にはあいさつ運動を行つていきます。三中生であいさつを

活発にすることが元氣なあいさつを地域の皆様に届けられることが私たちができる小さな地域貢献だと考えています。最後にこのアンケートやサミットに参加してみたい、しなかつたら感じられなかった事があります。まず川跡の魅力はとて人が優しく地域が雰囲気よく、温かいことです。これはほかの地域と比べてもかなり素晴らしいことだと思つています。自然も豊かであり、流もたくさんある、この川跡地域を守つていくために地域も温かいことを地域全体で守つていくことが大切だと考えます。これは一人二人が考えてもあまり効果はないと思います。地域に住むひとが温かい街になることを取組んだり意識することが必要だと考えます。これができれば川跡はより住みやすくなり、温かい街になることを考えました。以上で終わります。ありがとうございました。

花原 実は私は地域学校連連管理会にこの前参加させていだいて深田君が生徒会長で一番驚いたのは、彼が手元に持つていたファイルの厚さでした。この位ありました。（30cm）です。今日でもすけれども、ここで発表してくる前に何を大事にするかは、彼だけが色んなことを考えてその中で一番良いものを発信していこうとする。そういう風な取り組みが良く分かりました。また今日も話を聞いたので、あー本気で、中学生の出番といふのが非常に大切になつてくる気がします。僕は中学校は中学校生活だけで大変な気が思つていて、中学生の皆さんに地域貢献なんて酷いかもしれないですが、でもその時々にはアイデアがありまして、普段の生活の中で膨らんでいくと思つています。とつても素敵なアイデアだと思つています。またこちらの方からも三中生徒会の方にお願ひをして、何か負担をかけないようにして考えていければと思います。

花原 は、ありがとうございまして。とつても素敵にプレゼンテーションも作つていただき、さすがだと思つています。聞くところによると次期生徒会長さんも川跡の方のようです。きちんとして引き継いでいただけたらと思つています。ありがとうございまして。それでは続いて島根大学2年生長崎耕作さん、お願ひいたします。



みなさんこんにちは。高岡竿井手上一町内の長崎耕作と申します。本日はよろしくお願ひいたします。いきなりスライドを見てお分かりと思つています。書きだすと思つたかも知れませんが、実は私、この川跡で二十二年間、今二十二年間なんです。この「壁」、生きてきて、今思つて「壁」なんです。この「壁」、まあ、どの何の壁なのかは説明するんですけど、聞いていただきたいと思つています。では始めたいと思つています。自分の川跡での20年間。僕はふるさと祭りなどを始めとし、様々なイベントに参加させてもらつて、今まであつてききました。それで今二十







ていただきました。今、自治会に加入することで安心して住める、不安の解消にもつながるという思いをもたれるように、受けいれる側がもっともつと関心を持っていただけるように、そつと寄り添っていくことが大事なことではないかなと思いました。それから長崎さんがお話されたんですが、「夏休み学習広場」はいきいきまちづくり部でも継続事業として行っておりまして小学生同士の繋がりは学校ばかりではなくて、地域の力が必ず必要だということも、子どもさんと一緒に接していきながら感じていきます。地域の方との関わりの中で子どもが育つのはすごく大きな力となり、大人になっていく過程で大事なことだと思えますので、未加入の世帯の方には地域で育つ、子どもを育てるメリツト、コミセン行事の力を理解してくださる事で、子ども参加していただける、そういうことをお伝えすることで加入促進を進めていけるチャンスをいただけるのではないかなと思います。

最後にいただきましたけれども、これから地域の課題はやはり防災とか災害対策ではないかなと思います。安心して暮らしている普段の生活からは見えませんが、あれども、何か起きたときに、実際に隣りに誰か住んでおられるのかかわらず、もし逃げ遅れられても気が付かないようでは困ると思います。普段からのあいさつや声掛けとか、道端で会つたら世間話を通して町内会の家族構成がわかってないときあつていけないのではないかなと思えます。そういう事が基本にないとまちづくりができていかなんではいけないかなと、だからそのあいさつとか声掛けとかが土台にあつて、底辺にあつて、それからそこがまとまっていけば街づくりに大きい効果を出すのではないかなと思います。やはりそれが自治会加入率にはつとつり遠い親戚より隣り近所、近くの他人といひますけれど、それが大事ではないかなと思えます。やはり最後に私は自治会に入つて助け合うことが大事なことを若い世代の気持ちに聞きながら、私自身も伝えていきたいなと思えます。ありがとうございます。

### 花原

この会もいきいきまちづくり部の皆さんに色々工夫していただいたりできていますが、いきいきまちづくり部の活動に参加させていたただく中で、一番感じるのが、例えば「夏休み学習広場」だと昨年の反省を活かして、今年どういう風にしたいのか、どうしてみようか、子どもたち自身の出番を作つた方がいかな、じゃあこういう風にしたらそれがうけるかな、ただそういう風な事業を進めていける時に、丁寧な継続、やつて反省してやつてみて、良いところ悪いところをもう一回出して反省する、このサイクルが非常に大切にしてもらつて、例え学習広場に行かせるにしても、いろんな面を安心だし、安全の面もこれなら大丈夫だと、子どもを通して親世代がコミュニケーションセンターの事業に対する安心

感とか期待感とかを持っていただけると。本場に繰り返していただけてます。加入促進についてはその通りだと思えますが、なかなか言つのは簡単だけれど、なだけども、これからフロアーの方と意見交換していただけると良いアイデアが浮かんで、浮かんだアイデアをどう活かすかというところまで何か踏み込んで、また来年同じ話になつて終わつてしまつようならちよつと残念ですね。たとえばまた来年同じようなメンバーで続けてやつてもらつたわ、来年こんなことができたら、できそうだと話が出て、それをどう活かすかという風なことに、この会そのものがですね育つていくかという風な思ひます。どね、この後フロアーの方との意見交換をする時間となつていくんじゃないかなと思ひますので、ぜひ積極的にご意見をいただきたいと思います。

### 坂本

はい、パネラーの方、素晴らしいご意見をありがとうございます。先程から出ている「チャレンジ広場」とか「夏休み学習広場」とかも、もう16年ぐらい継続してきます。ずつと昔から着々と続けてきた事業が子どもたちに沁みついてきていてのをとても嬉しく思つております。感想でもなんでも良いです。お願いしたいと思ひます。お願ひできますか。(挙手無し)でしたら私の方が指名をさせていただきますね。北陽小学校の森校長先生、今日おいでになっております、隼君の発表も含めてご感想をいただけたらと思ひます。お願いいたします。

### 森校長先生

まずは隼さん、お疲れさまでした。あなたが何を語るかなあと思つてとても楽しみにして来ました。良くやつた！。隼さんがみなさんにお伝えしたこと、本日も僕も学校の代表としてとつても嬉しかつたです。何が嬉しかつたか地域の方にしつかり関わつてもらつていることが子どもには伝わつていっているんだよと思ひますので、皆さんに伝わるといいなという思ひをいふも思ひます。小学生も川跡の未来のためにあれだけ考へていっているんだな、5年生です、来年6年生です。また楽しみます。また、深田さんも長崎さんもお二人ともですね、隼さんと同じ事を言つてくださつていてる場面がありまして、それは小学校の時にとても良い体験をしたと、地域の人にしつかりと関わつてもらつて、それが良かったというプラスの感情をもつてもらつたというのが僕はとつても嬉しかつたです。学校も



地区と一緒に子どもを育てていこうと思つてますので、そういう意味で学校でできることは、今やつていられる方としっかり交流しながら関わり合ひながら、一緒に子どもを育てていこうと思つています。それがこういふステキな中学生、大学生になつていくんだと感じています。学校の方も頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

### 坂本

ありがとうございます。それでは続きまして出雲三中大樹教頭先生、感想お願ひします。

### 大樹教頭先生

失礼します。出雲三中大樹教頭の大樹でございます。川跡地区の皆さんには日頃大変お世話になっております。今日は生徒会長の深田君が発表しました。今年度コロナ禍という事で、三中の生徒会活動も色々あつたんですが、いろんなところで計画がうまくいかなかつたり縮小になつたりと、本当に会長は大変だつたと思ひます。その中で一生懸命生徒のために三中のために頑張つてくれたことに、私個人的な思ひですが感謝しております。最初に紹介がありましたけれども次期生徒会長も川跡地区の生徒、松田君という生徒ですが引き続き三中を担つていく会長として頑張るんじゃないかなと思ひます。個人的な意見ですが、今日このような状況の中で、小学生、中学生、大学生の皆さん、そして地域の皆さんがこうしてパネラーとしてサミットを開かれたという事、すごいなと、これができる川跡地区はすごいなと正直感じました。それから自分の子どもはもう二十歳を過ぎましたけど、いろんなところへ連れて行きまして、一番印象に残つているのは家の周りで遊んだこととか地域の中で色々やつていらつた事、案外そんなことしか印象に残つていないなことをよく私に言ひました。そういう事もやはり大事なことだ、地元の中で子どもを育てることはすごく大事なことだ、地元の親としても感じております。今後とも川跡地区の皆さんよろしくお願ひしたいと思います。また川跡学校の方にも温かいご支援よろしくお願ひします。以上でございます。

### 坂本

ありがとうございます。他にいらつしやいませんか。(岡村さん挙手)ではよろしくお願ひします。

### 岡村

今日はありがとうございます。稲岡町の岡村といひます。私は介護関係の仕事をしていまして、長崎さんとか深田さんにぜひご意見伺ひたいんですけども、川跡の未来・夢を語る集ひという未来に向かつて行つていけるのに、こういう話でいいかどうかかわからないんですが、私も含めてちよつとできることがなくなつたり、ちよつと物忘れしちよつとたなという事が出てきたりして、例えはこういうことができたらいいなとかあれば聞かせていただきたいと思います。

**深田** さつきも言ったんですが、先ずあいさつ運動とか、やっぱり子ども元気は地域に貢献できる一番の原石のような材料になると思うので。今年はまだ規模を大きくしていなかったんですけど和実祭、体育部門・文化部門を毎年やっていきます。これもやっぱり地域の皆様の支援なしでは行えませんし、僕らも今年のスローガンを集大成としたんですけど、その努力の集大成を地域の皆様に見せたいんです。来年は和実祭やあいさつ運動など生徒会活動は続いていきますので、引き続きご支援とまたできれば少し目を向けていただければなと思います。

**岡村** ありがとうございます。

**長崎** 自分はやはり先ず、お年寄りというか物忘れしてしまふなあという方々と若い人が触れ合う事がすごい大切だと思っていて、なかなか若い人って自主的にお年寄りと関わろうとする人は少ないと思いますけど、最初は何か義務的に何かイベントしなさいみたいな感じでとりあえず関わってもらうことがすごく大切だと思っています。その後強制的な言い方をすると悪いんですけど、その関わった中で、あつこんな良いことあつたんだとか自分こんなことが出来るんだとか、若者が思えるようなことがあれば、絶対その学生たちは続けてくると思うんですけど、自分は実際に1000時間体験学習の中で、これがいなという学習は続けています。なので先ずは何かしらイベントを作る事です。さつき深田さんが言われたように、あいさつ運動とか、会場後方に県大生の作られた「メッツかわと」が掲示してありますが、あのように関わることがすごく大事だと思っています。

**岡村** ありがとうございます。お酒飲み過ぎたり、たばこ吸ってことよりも、何か人との関わりが無いってこと自体の方が命が短くなるという研究もあるらしいので、ぜひ若い方に広い世代に関わっていただいで、英気頂けるといいかなと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

**坂本** 今こちらとしても、そう言った場を提供することを考えています。他にはございませんか。はい、そうです。

**佐野** 私は中野町の佐野と申します。今日は若い人たちから色々な意見をいただいで、随分刺激になったといいますが、ありがとうございます。私は川跡に住んで40年ですが、子育ての環境だとかいろいろ意味で良いところだと思っっています。ただですね、以前から思う事は下水という排水路が汚いと思います。ゴミとかが固まって、それが一部ではなくて全体的に汚いなど、ただ一年に一回地域全体での排水路掃除があります。あれは非常に良いこと

だと思いがすが、どうしても一年に一回となるとその間にだんだんとゴミが溜まったりして、私も気になってせいで私の家の周辺はできるだけ私の家族的排水路の清掃を結構頻りにやっています。これも全体的に広げたいかないと思っています。今日若い方から意見をいただいて私も少し広げていくというところも、今日本日も、訴えかけていきたいなと思っています。今日は本当にありがとうございました。

**坂本** 長崎さんが言われた自ら動き出すというところが、聞いていらつしやる方の心に響いたようですね。次、田中さんどうぞ。

**田中** 和泉さんと長崎さんをお願いしたいです。斐伊川で子どもさんを連れて遊ぶ機会を公表されましたが、大変良いことだと思いがすが、ただ私も年をとつてから斐伊川にはしよつちゆう行つています。それで感じることは、団体で来られる遊び場は非常にあります。日曜日でも団体で野球したりはありますけれども、個人の方で遊びにいから話になつてます。自分で何か目的もつてやるという、生活に自分自身が活気をもつて何かをやりだすという、それが大事だとおっしゃっています。最近はどうも何かイベントがあるとそれに参加するというのが非常に多くなつていて、家族だけで何かをされる方が少ないのではないかと、どちらかというとお店の方へ行つたり、イベントがあるとそちらへ流れて行つたり、健康的ないわゆる自然と遊ぶというのを家族でみながらやつていらつしやる方が意外と少ないなと思つております。どうい風にしたらそういう気になつていただけるかなという気が持たずつとあるんです。どうい仕掛けをしたらそういう家族が増えるかなという感じがしています。それから長崎さんですが自治協会の加入者が少ないとのことですが先程の発表のなかにもありました、入らなくても暮らしていただける、何ら支障もない、そんな感じいらつしやる方が非常に多いです。川跡は特に急に人口が増えたといいますが、軒数が増えたという影響もあつて、あんまり自治協会からも自分の近所に家が建つた時も積極的に誘うというところが、どうなつていけるかえらく心配しています。ほんの近くに家が建つた場合はいらつしやるらんぼの中のちよつと離れたところに建てられてもほつたらかしくないかとあれですけれども、あんまり積極的に関わらないですね。そういう関係もあつてか、何もしなくても充分住めるという感じの人が多いのではないのでしょうか。ですからどうい働かけをしたら入つていただけるか。前はですね、私たちの頃は、子どもさんが学校へ通うようになりまふと自然と入られるんですよ。今はどうもそうでもないみたいですね。だから家を建ててから、子どもさんが幼稚園、小学校に上がられるようになりまふと自治会に入つたり、学校の後援会に入つたりさ

れておりまふたけれども、ですから前は自然にその家庭が年数が経つて成長されると同時に地域への関心も深まつて、加入されるといふような形だつたと思いがすが、そういう風の中々最近持つていけないのではないかと、子どもさんが上がられても入られない方がいらつしやるのではないかと。その辺をどう掘り起こして行つたらよいのかと感じました。いかがでしょうか。何か良いアイデアが若い方ありますでしょうか。

**坂本** ではまず最初に、和泉さんへのご質問で、個人で斐伊川河川敷を利用する仕掛けみたいなものがあるかなというご質問でした。

**和泉** そうですね。本手に土手に遊びに行くのと周りで遊んでいる人はいなくて、我が家だけで遊んでいるのがほとんどな人で行くので、子どもたちはそれが出来ることは知つているので、行きたいという気持ちはあると思つて、それを連れていく親や大人が必ずついていないといけないのがあつて行けないのかなというのがありますけど、情報発信をするのがなかなか。夏には北神立橋の下の方で蛍を見たという話を友達から聞いたりするので、そういうのを積極的に「川跡のまちのあそこであつたよ」とか、「みたいなのがあれば、夜家族で見に行つたりとか、少しでも足を運んでみたらええよ」とか、何かちよつとしたことでも情報発信していく、行くのかなと思いがすが、結局近くに遊具がある公園がすぐ歩いて行ける距離にはなつて、散歩して行き来するのがほとんどコースにはなつて、遊ぶんですけど、それが無くても子どもたちは結構楽しんで遊ぶので、いろんな発見があつて。なので遊具が無くても遊べるという事と川跡のまちの遊び場のマップ的なものがあればよく分かりやすいのかなと思いがすが。

**田中** 子どもさんに引かれる方が多いですか、それとも親さんが誘われる方が多いですか。

**和泉** 子どもに誘われる方が多いですね、我が家は。すぐ「散歩に行こう、散歩に行こう」と言つてくるので。公園についてつとはあまり言わないで、散歩に行きたがるので、よく川跡のまちを歩くような散歩に行きます。

**田中** そうすると川跡の中の遊ぶ良い所をいっぱい知つてもらふことが大切ですね。親さんに。

**和泉** 私は子どもと一緒に発見しているような感じですよ。子どもと一緒に散歩して道路の発見も、こんなところへ出てくるんだとか、こんなところにたくさん花が咲いているんだとか、そういう発見も一緒にしながら散歩するような感じですよ。

